

イ) グリーンイノベーションによる持続可能な社会の実現

3. 自然共生社会実現のための流域・社会基盤管理技術に関する研究

(11) 地域環境に対応した生態系の保全技術に関する研究

研究期間：平成23～27年度
プロジェクトリーダー：寒地水圏研究グループ長

【研究の概要】

様々な人間活動が、河川環境を介して動植物の生態系に影響を及ぼしていますが、人口減少、高齢化等の社会情勢の変化の中で、人との関係をとおして生態系を評価し、良好な河川生態系保全を行うことが社会的に求められています。

このため、流域の生態系保全を、氾濫原も含めたネットワークの中で生産性と人とのつながりの2方向の視点から解明し、実河川において、上流域から河口域までの広い範囲での環境の相互作用の把握を行い、流域単位での管理手法の提案を行います。

さらに、社会構造変化の生態系への影響をとらえるために、氾濫原も含めたフィールドで調査を行い、河川生態系保全事業の評価手法を提案します。

また、人とのつながりの視点で生態系を捉えるために、生理学的観点からも調査を進め、生態系評価手法の確立を目指します。

- ① 流域からの濁質流出が河口域環境へ与える影響の把握と管理技術の確立
- ② 河口海域における地形変化特性の評価技術の提案
- ③ 氾濫原における生物多様性保全を、生物の生理・行動学的視点から捉えた、流域全体としての氾濫原管理技術の提案
- ④ 積雪寒冷沿岸域における生物の生息環境の適正な管理技術の提案

